

平成27年度第2回羽幌町社会教育委員会議

並びに羽幌町公民館運営審議会 会議記録

1 開催日時

平成27年11月26日(木曜日)

午後7時00分から午後9時00分

2 開催場所

羽幌町中央公民館 相談室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員 大長 司、大水隆司、植松寛喜、本間範子、岩澤光子、  
松葉師正、工藤俊也、西村教子、鈴木真一、小國美恵子

(2) 欠席委員 長谷川 博、松森勝彦、

4 説明のために出席した事務局職員

社会教育課 課長 湊 正子、課長補佐 永原裕巳

社会教育係長 大西 将樹

5 会議の公開、非公開又は一部公開の別  
公開

6 会議を非公開又は一部公開とした場合は、その理由

7 議題及び議事の要旨

(1) 委員長挨拶

(2) 平成27年度社会教育事業経過報告について

別紙議案に基づき事務局より報告。

・意見等

委員：オロロンマラソン大会、雨が降ったが、谷川真理さんが来たこともあり大変活気があった。あと、ラジオ体操も参加しているが、バラ園のところは大変活気があった。

委員：今年から小学校に図書館司書に週1回来ていただくことになり、図書の整理等からなにかとやっていただき大変ありがたいところです。

委員：今年は10月に留萌管内道民芸術祭が羽幌町が担当になっており、大変ではあったが舞台部門、展示部門の開催をした。また11月には町民芸術祭もあったが、展示部門が少なかったかなと思う。また、内灘との交流ももっていて、今年は内灘の作品を展示したが、大変いいこと、刺激

のあることと知っている。過去には4年に1回オリンピックの年としていたが、それでは、役員等が変わり、引き継いでいけないと、今のように2年に1回となった。

委員：町民芸術祭、やはり人が少ないと思う。昔のように賞をつけてはどうか。

昔は、金賞とかあり、日曜日、表彰式の後、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんもどーっと公民館に行って、人でごったがえしていた。昔の活気がない。そばも、昼前にはなくなった。もう一度、もどればいいなと思う。

事務局：基本的には、文化協会中心の実行委員会でやっている。表彰がなくなった経緯というか、基本的には発表の場ということで、平成23年度くらいに会の中で決められたということ。

委員：その頃関わっていたものとして。表彰はいいことだが、毎年同じ人が表彰される。その人に聞くと、盾や賞状がいっぱいあると。また、子どもで、他人の作品が投稿されたこともあり、いったん止めてみようかということになった。また、年々予算が厳しいこともあり、大人はいいとして、子どもには参加賞で、何かあげてはどうかとかなった。審査の対象となる部門だと、団体のメンバーで内輪で決めるわけにはいかず、他の先生に依頼するが、毎年同じ先生に依頼してということもあり、それもどうかという話にもなった。今年の役員会でも話題になって、せめて子どもには表彰をしてはどうかとなった。来年度、テーブルにのせますとなっている。次年度に向けてはもう少し早い時期に検討することになっている。

委員：えさではないが、なにかそういうことも、足を運ぶのには大切かも。

委員：賞があるとかなないとかではなく、クラブや同好会が不活発になっているのが一番大きな原因ではないかなと思う。

委員：昔だったら3階から全館使って開催されていた。

委員：毎年開催されている芸術祭が、なんか、年々、年々少なくなって、何かひとつ、、、。答えは出ないが、もっと町民が見たりできる方法はないかなと思う。今年は図書室が開館なっていたが、大変良かった。全館空いているのに図書室だけ閉まっているのはどうかと思っていた。

委員：それと、高齢化。だからといって手をこまねいているのではなく、どうやったら活性化できるか考えていきたい。

委員：若い人を誘い込むのは難しいかもしれないが、お母さん世代でも、なにかの機会に誘い込むことができればいい。

委員：サークル活動している人だけではなく、町民芸術祭だから個人からもっと出しやすくできないかと思っている。お家でなにかやっている人はたくさんいるはず。本当は、公民館を利用している人だけの展示場面ではないはずなので、そこを掘り起こすとまた違った面も出てくるかと思う。

委員：高校生への呼びかけはどうなんでしょうか。

委員：呼びかけはするが、高文連等もあるし、書道とかはない。

委員：だぶってもいいから、呼びかけてみるといい。

委員：小中の俳句等は、出せばいいやで、出したから見に行くというようではない。

委員：意外と、行きたいと思っていても、一歩足が出ない人多いと思う。

委員：今の組織というか、メンバーだけでは難しいこともあるかも。実行委員会ももっと広がりをもつといいかもしれない。

委員：あざらしお話し会、この頃親子、幼児が多くなっている。小学生が来なくなっている。事業報告にはなかったが、お話し会では毎週木曜日朝読をやっている。少しずつ興味をもってくれている。逆に私たちが楽しみとパワーもらう部分もある。

委員：こどもフェスティバル、ぼくの主張、私の主張、こどもたちが少なくなっているが学校での協力、各方面の協力、感謝に堪えません。ありがとうございます。

委員：時期的に寒くないか？

委員：以前は5月の最初にやっていたのを、寒いので2週間ずらした。

委員：昔前、初山別からもお父さんお母さんが子どもを連れてくる。楽しみにしているおじいちゃんおばあちゃんも多い。

委員：人口が少なく、高齢化していて、若い人いないことはないが、リーダーシップをとってくれる若い人がいないなあとと思う。

社会教育事業で、例年より人が少なくなったり、これは伸びているとかはあるか。

事務局：郷土資料館は、バスツアーの減少や、小学校の総合的学習で使用した面などで減少傾向にある、今年は、イカ、タコなどの化石が発見され、レプリカを展示したなどあるが伸びにはつながらなかった。逆に焼尻郷土館については改修で、観光シーズンに足場を組んだりしていたが逆に伸びた。体育施設についてもほぼ例年通りかと思う。

委員：つのだ、くわまん、冬樹のコンサートは大成功でしたね。

委員：お金のかかることではあるが、できれば年1回くらいこういうのをやっていけるといい。若い人は札幌とかへも行けるが高齢化して行けない人も多い。

事務局：参加人数でも、例年より参加人数が多かった事業が多かったと思う。それについても、関係機関の周知や協力のおかげと思っている。

委員：マラソン大会。猫ひろしはおもしろかったが、小さい子に聞くと知らない子もいた。もう少しPRすればよかった。小学生、中学生、高校生が少なくなっているのも、もっと参加あるように呼びかけてほしい。少し盛り上がりを見せたので、今、大事なときと思うのでPR必要。

委員：中学校、少なかった。部活単位で、先生が協力してくれるといいが、そういうのがなかった。

委員：他の町の子ばかりが賞をとる状況もある。

事務局：今年、ファミリー部門をはじめて作ったが、とてもほほえましく、どの家族も笑顔で、見ているほうにも好評だし、参加人数が少なかったの  
でみんな入賞となった。

ゴールのとき、手をつないでゴールするというルール。写真を撮っていてもほほえましかった。

委員：オロ帽コンテストはあったが、これで終わり？実際に優秀作を作ってみるとかはないのか。

事務局：今年、大変好評だったので、また来年やろうかという話もあるが、実際に作るということにはなっていない。観光協会にも話したが、そういうことにはなっていない。

委員：オロ坊コンテスト立体部門とかでもいいね。

委員：子ども自然教室の子どもたちのお手伝いをした際に、小さなオロ坊を来年作るのを子どもたちと約束した。町民芸術祭に小さなコーナー設けて展示したいとも考えている。

委員：オロ坊もいろいろなところに来てくれるからアイデアはいろいろ出ると  
思う。来年度もやるということなので、よろしくお願いします。

- (3) 第55回北海道社会教育研究大会（日高大会）出席報告について  
出席者大長委員長より報告。

質疑、意見等なし

- (4) 平成28年度予算（臨時費）について（主な事業）  
別紙議案に基づき事務局より説明。

質疑 なし

- (5) その他

事務局より別添内容により口頭説明。

- ①羽幌町総合体育館の指定管理者の選定手続きについて
- ②羽幌町公共施設マネジメント計画について

意見等

委員：新聞報道等あって、どうなんだろうと思っていた。ちゃんと決まるの  
かなとか、うまく進めばいいなと思っていた。

委員：話はよくわかった。感想としては、こういう事態になる前につっこん  
だ話ができなかったのかなと思う。せつかく羽幌の体育館なのに羽幌の  
人ではないところが管理するのはもったいないと思う。

委員：全道に広げたときにマラソン大会を除いて、どういう状況になるのか。

事務局：体育館の指定管理とマラソンを別に考えていただきたい。指定管理は指定管理として、マラソンの実施には体育協会には協力を仰いでいくと考えている。

委員：指定管理が見つからなかったら、教育委員会でやるということか。

事務局：今は、指定管理に応募して頂くことを一生懸命やっていく次期なので、今それを答えるのは難しい。

委員：今体育館の従業員いると思うが、仮に道内からの応募があった場合、従業員全部連れてくるとか、そこはどうなるのか？

事務局：指定管理は、募集要項、仕様書はあるが、事業提案をしていただくもの。プレゼンテーションを選定委員会でしてもらうが、その際に、地元の雇用とか、引き続きの雇用などの提案があれば、それはプラスの要因となる。ただ、それを条件としてはいない。教育委員会としても、そういう方向は求めていきたいと思う。

委員：新聞報道だけではなく、わかりやすい説明でよかったと思う。

事務局：公共施設マネジメント計画についても、今後、また時期をみて、委員のみなさまに素案等ご説明する機会等あると思うのでよろしくお願ひします。

## 8 その他 特になし